

## 華やかに2018年新年会、クラリネットとピアノの調べ楽しむ

上田高校関東同窓会は1月18日（木）、千代田区一ツ橋の日本教育会館で、2018年新年会を開催した。48期から106期の計103人が参加し、軽井沢町在住の高橋真理さん（103期）のクラリネットと、佐久市在住の細井美来さんのピアノによるミニコンサートを楽しんだ。



始めに上原昇会長（65期）が、「今年は関東同窓会が支部時代から数えて創立60年という節目の年です。会員交流の活性化などいっそうの発展を目指しましょう」と呼び掛けた。

恒例のイベントでは、副幹事長の渡邊温子さん（72期）の司会で進行、ピエルネ作曲の「カンツォネッタ」で幕を開け、軽快な「クラリネットポルカ」、演奏が進むうちにクラリネットが短くなっていく「インマークライナー」（シュタイナー作曲）、シューマンの「アダージョとアレグロ」、細井さんのソロによるショパンの「ノクターン」などクラシック曲の数々に続いて、1970～80年代に親しまれたカーペンターズの「青春の輝き」と「イエスタデーワンスモア」を懐かしく聴かせた。



さらに、昭和の青春ソングやNHK「みんなの歌」などで数々の名曲の詞を書かれ昨年亡くなった同窓の作詞家、山川啓介さん（井出隆夫さん、61期）の作品から「聖母たちのララバイ」を情感豊かに、「銀河鉄道999」のテーマを華やかに演奏し盛り上げた。最後は、クラリネットとピアノの伴奏に合わせて「上田高校校歌」を出席者全員で合唱し、新しい年に絆を深め合った。

席を移して催された懇親会は、小泉行徳さん（75期）の司会のもと、53期期代表幹事の須田武久さん音頭で乾杯し、ミニコンサートで演奏した高橋さんと細井さんも交えて会場内には多くの人の輪ができ、会員たちは和やかに歓談、近況や昔話に花を咲かせた。途中、本年総会の実行委員長である71期の小林秀一さんが、意気込みを力強く披露した。

出席者の中で一番若い106期の宮入美樹さんが、凛々しく中締め挨拶をしたのを受けて、塩野崎英二副会長（66期）の発声で万歳を三唱し、母校、同窓生の今年1年の活躍と、60年を迎えた関東同窓会の結束、発展を誓い合った。

新年会の模様は、60周年記念事業の一つとして動画で記録し、6月の総会の記録と合わせて記念誌（DVD）に編集し、完成後は会員に頒布する予定です。

